

授業が変わり生徒が変わる

『国語の窓』の原稿を整理してみたところ、けっして読みやすい順番にはなっていなかったことがわかりました。そこで、もう一度、再構成してみました。その結果、自分が国語の授業で、悩み、苦しんできた姿が浮かんできました。本書は、それらをまとめたものです。

本書では、何度か「これだ」という手応えを感じ、手だてを講じた結果、そのたびに授業が変わり、生徒が変わっていったという事実は明らかにできたと思っています。本書が、国語の授業で悩み、日々、理想とする授業を追い求めている方々にとって、少しでも役に立てれば幸いです。そして、国語の授業により、自分の思いや考えを書いたり話したりできる生徒、さらには、世の中を力強く歩んでいける表現者が増えていくことを望んでいます。

2023年（令和5年）9月

深みゆく秋の夕暮れに 高澤 正男

前号と今号が、「おわりに」の原稿である。地震のおかげで資料がそろい、「よし、始めてみるか」と思ったのはいいが、原稿執筆が一向に進まない。思案に暮れていると、そこで、ふと「国語の窓」の企画が浮かんだ。毎日、ホームページにアップする一話完結型だと何とか書くことができた。結局、約10か月をかけて213号になった。毎日出しながらも、これが本になるというイメージをもつことはできなかった。

本にするとしたらという前提で、213枚の原稿を並べ替えていった。必要性を失った原稿もあった。ボツである。作業を通して、自然と目次の素案のようなものができていった。一つ一つの原稿を読み直し、加筆修正をしていった。どうにかこうにか、原稿として整えることができた。気づけば、300ページを超えていた。ようやく出版社に原稿を送った。

出版社が考えてくれた本の帯には、次のことが書かれてある。

授業が変われば生徒も変わる

スピーチ、バザール方式、ディベート、パネル・ディベート、群読、ジグソー学習、一枚ポートフォリオー生徒の主体的な授業活動によって論理的思考力とコミュニケーション能力を高め、グローバル社会で活躍できる子どもを育てる！

「読む力」、「書く力」、「調べる力」、「考える力」、「聞く力」、「話す力」＝「表現する力」を鍛える、若い国語教師のための「総合型国語科教育」指導書の決定版！

『表現者を育てる授業ー中学校国語実践記録ー』は、新聞広告が出て、全国のいずれかの書店に並んでいる。アマゾンや楽天ブックスなどインターネットでも購入できる。私の手元にも在庫がある。お世話になった方や若い先生方に、ぜひ読んでいただきたい。何かしらの参考にはなると思う。